3.11 を忘れない　～ひとの復興～

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

被災者であり支援者でもある被災自治体職員の心のケア

災害で住民支援の「公助」を担うのは自治体の行政職員です。東日本大震災でも、職員は自身が被災するなか住民の避難生活のために不眠不休で働きました。直後の混乱を乗り越えた後は復旧復興に伴う業務に忙殺される日々が続きました。

被災者でありながら支援者でもある行政職員の苛酷な状況は、心身の不調や自死のリスク増につながるとの指摘があります。(社)宮城県精神保健福祉協会「みやぎ心のケアセンター」はこれを踏まえ、被災者への支援と同時に行政職員など"支援者への支援"を行なっています。

同協会気仙沼地域センターの片柳光昭さんは「多くの行政職員は少なからず被災をしているが、行政職としての役割を果たさなければならないという使命感も強く、そこで葛藤が生まれ、心身の不調に繋がることもある」と言います。

▲(社)宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター「気仙沼地域センター」の皆さん。気仙沼市と南三陸町で定期的に職員向けの相談会を設けています。中央が片柳光昭さん。

支援者として住民の不安や苛立ちを正面から受け止めるのですが、そのことが継続することでストレスとなって蓄積されてしまう場合があります。地域住民のみならず行政職員の中でも、サバイバーズギルト(生き残った罪悪感)にとらわれて健康状態を悪化させる人、本音を吐けない人や最近になってようやく被災体験を話せるようになった人もいます。センターでは丁寧なケアを重ね、精神的な健康の回復に導いたり、休職していれば復職へとつないだりしています。

5年経ち、阪神・淡路大震災や新潟県中越大震災には無かった課題も見えてきました。「これほど復興が長期にわたる震災は今回が初めてです。震災後7年、8年と続くと予測される復興業務の過程で精神的な疲弊がどう進んでいくのか気になります」。また片柳さんは、今後入職する若い行政職員にも注意を向けています。「彼らは行政職として震災対応を経験していません。復興業務にあたったときどうストレスを感じていくのか、他自治体からの応援職員へのケアも含めてしっかりサポートしていかなければなりません」。

被災自治体の人手不足は復興のピークを迎えたいまも解消されず、行政職員には過重な負荷がかかっています。「支援者が健康でない限り十分な被災者支援はできない」という考えは阪神・淡路大震災の大切な教訓です。それは熊本地震でも同様でしょう。被災自治体職員の心のケアは被災地が「ひとの復興」を果たしていくための重要な課題なのです。

▲災害公営住宅の建設や道路建設、用地買収など復興業務は今後も続きます。気仙沼市内湾地区に建設中の災害公営住宅。

いきいき消費者フォーラム in 2016

東日本大震災で被災された方の手作り商品を販売

5月21日（土）に福井市のアオッサで開催された「いきいき消費者フォーラムin2016」（消費者総合フォーラム交流展実行委員会主催）で、福井県生協連合会は他の協同組合とともに物品販売を担当しました。今回も東日本大震災で被災された方々の手作り商品と花ポットを販売し、売上金を東日本大震災復興支援として募金します。

また、講演会では、社会保険労務士でありファイナンシャルプランナー（CFP）でもある井戸美枝氏が『消費税アップに負けない家計作り』をテーマに、「お金を貯めることと使うことのバランスが大事。まずはライフプランニングをつくり、生きがいのある人生を楽しむためのお金の使い方をしましょう!」と参加した消費者に伝授されました。

第20回 海岸クリーンアップボランティア募集

雨天決行

❶ 9月3日(土)
9:00～10:30
鷹巣海水浴場

❷ 9月10日(土)
9:00～10:30
三国サンセットビーチ

※いずれも活動は9時から1時間程度です。海岸清掃終了後は、みんなでゴミを分別し、集積します。
※悪天候により事前に中止する場合があります。その際は連絡いたしますので、申し込み時に連絡先（電話番号）をお聞きします。
※持ち物：ゴミ袋は事務局で用意します。軍手や汗拭きタオル・火はさみなどは各自ご用意ください。

お申込み・お問い合わせは福井県生協連合会まで。

協賛：福井県企業等ボランティア・社会貢献連絡会（Fパネット）

7月11日(月) 福井県立大学で出前講義

『食の安全とくらしの安心で、地域へのお役立ち』テーマに

福井県立大学経済学部 北川太一教授の講義のゲストティーチャーとして招かれて実施している福井県立大学の学生を対象にした出前講義（90分）も、国際協同組合年（2012年）から数えて5年目となりました。

「協同組合って?」「生協って?」の基本知識をおさえた後、生協が組合員のくらしだけでなく地域や社会、地球環境をよりよくするために地域や職場、学校などで事業・活動していることを、パワーポイントで具体的事例を示しながら話をすすめました。

後半は、福井大学生協 野尻専務理事（当時）より「大学生協って?」をテーマに、福井大学生協の使命や行っている事業・活動、学生が参加し体験できる企画などを紹介し、「福井県立大学でも、ぜひ大学生協設立にチャレンジしてみてください。福井大学生協が全面的にサポートします!」とエールを送りました。

▲福井大学生協　野尻専務理事による講義